

Title	雜報
Author(s)	
Citation	地球 (1930), 14(1): 74-79
Issue Date	1930-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183777
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

あるのが手際である、通讀した内で目新らしく感じられた所は聚落地理である。著者は必しもこの部分に主力を注がれたわけではないであらうとは考へるが、しかしコロタイプ二十有餘がいくらも本章に關係してゐるところを見ると、聚落の研究を以て本書を特賀づけんと試みられた事は慥かであると信ずる。ジュラやアルプスの溪谷の山村や鍾村や袋原の都會や河と都會との關係などを、一目瞭然たらしむる外國の寫眞をみせるだけでは本書出版の意義はあつたと思ふ、日本の村落を取扱ふに當つて地名の解釋を參考し、その發達の史的研究に溯らんとする著書の態度は誠に結構なことである。我等は本書の著者によつてこれらの外國の聚落のみでなく、日本の聚落についても越中の散村連營村落の少しばかりの實例を外にして更らに詳細な説明を聞く日の速かならんことを祈らざるを得ない、これは港市や都市についても同様に希望される點であつて、しかもこの希望は單に筆者の望のみではないであらうと考へる。(藤川)

雜 報

○小川博士還曆祝賀會

小川博士還曆祝賀會は豫告の如く、五月二十八日午後、京都帝國大學本館大講堂に於て賑々しくしかも莊重に行はれた。

當日會するもの凡そ三百名、本館講堂の中央部を金屏風に

かこひて式場に供し、正面に建昌大夢氏勞作の小川博士銅製レリーフ一面を据ゑた。これは壽像として祝賀會から、小川博士に贈呈したものである。

式は午後五時半大宰理學博士の司會の下に始められ、中村教授開會の辭にかゝて、博士の功績と學風を發揚し、石橋教授會務の報告を終り松原博士から記念品贈呈のち、新城總長の祝辭、文學部、理學部兩部長の祝辭、門下總代としての寺田貞治氏(文)、上治寅次郎氏(理)の祝辭があつて、やがて諸員の感喜の中に、小川博士の謝辭があり、六時半より別室に於て賀進をひらいた。筵に列するもの凡二百、濱田、松山兩教授の司會で、めでたく盛裝を供し、デザートに入つてからは、狩野、内藤、足立の三名譽教授のスピーチがあり、狩野老教授は博士壯年の頃からの顔なじみで、當時は紫髮漆黒の美男子であつて今日の如く兀てはゐなかつたことを證明して會衆を笑はせ、内藤博士は支那で博士に近づきになつたのべ、足立教授は還曆一退職一名譽教授、三者實は一つのことであつて、實は淋しいものだとしてしんみりとした感を與へ、やがて中目覺氏は立つて小川博士の朝鮮及維納に於ける武勳のことを披露し、田中子爵、石川成章氏なども共に昔がたりに花をきかせば、朝日新聞社上野副社長は、同新聞社を代表して博士に負ふ所大なりしことを賞讃し猶行末永くといふ意味をのべた岩井京都大毎支局長は博士によく叱られたことを追懷して博士の健康を祝し、小川琢治日本地圖帖が人

文學界を裨益した點を力説した。かやうにして主客觀をつくして時の移るを忘れ、最後に總長の發辭にて同博士還曆若がへりの爲めの乾杯をかはした、賀進を閉ぢたのは午後九時に近かつたであらう。

我等地球團員も亦心から博士の老て益々壯んなんことを禱り、祝賀の意を表することに於て、人後に落つるものではない。

博士は文理兩方面に關係があるので、兩部の學者が、この日一堂に會するの機縁ともなつたが、記念論文集も亦同様に兩部の論説が集つたので、紙數大に増加し、印刷が後くれたゝめに當日博士に贈呈することが出来なかつた。いづれ二三ヶ月の後には京都弘文堂から出版發賣されるであらう。

最後に同博士はこの祝賀會に参加された當日の來賓は申迄もなく一轍辭金の方々へ「蓬萊集」と稱する自作の詩集を配布された、この詩集は古く支那や歐洲に遊ばれた時の名什を撰擇されたもので、一讀三唱感嘆に堪へざらしむるものがある我等は博士の吟詠が掛冠の後に於て更に大に膨脹するであらうことを期待して、併せて感激の微意を表示する。(F)

○八丈島の野牛

史料叢書伊豆七島調書をみると八丈島は東西五里程南北七里程、江戸より海上凡二百里、其家數六百拾五軒男二千三百八十七人女二千四百七十五人である、之を大正十五年六月十一日の官報によると八丈島九千百二十七人である、この中青ヶ島と鳥島の四百二十人を差引いても、

徳川の中世から今日までに、人口の増加したことの大なるを知ることが出来るが、當時この島に牛八百二十拾九疋がゐたと記されてゐるのも面白い。勿論農民の飼育してゐたものであらう。それが山へ逃げて自然に野牛となり、今では八丈富士の高地にすみ、何時の間にか澤山殖えて、山へ行く人を脅かし、椿油を取る椿の樹を荒す、時には麓の畑などに出て來て作物を荒す、そこで本年四月東京府の許可を得て野牛狩を行つた、昨年は二頭しかとれなんだが、本年は狩獵家三名を東京から招聘して、島の獵師が勢子になつて牛を追ひだし、狩獵家は椿の木の上に隠れてゐて、出て來たのを撃つた、勢子の中には角にかけられて投げ飛ばされたものもあつたが、幸に死者はなく、遂に十七頭の野牛を捕獲したといふ。狭い島にも牛が荒れる程の空地があるのは、面白いことではなからうか。(山林五七一號による)

○朝鮮金剛山への道

京城から金剛山へ行くには、從來は約一晝夜を要してゐたが、金剛山電鐵の斷髮嶺西口までの開通によつて、著しく時間を短縮することゝなつた。即ち五月十五日から斷髮嶺のトンネルが開通して、金剛口まで電車が通じ、そこから長安寺まで自動車連絡があるので、京城から僅五時間半で達することが出来るやうになつた。しかし日曜、祭日には京城驛午後十一時五十分發列車に、金剛山行三等寢臺車一輛を連結しそのまゝ鐵原から電車に斷替へて金剛口まで連絡し、そこで自動車に乗替へることが出来るの

で、翌日午前七時には長安寺に到着する。歸路には午後五時長安寺を出發すると、途中金剛山・鐵原を経て、その日の午後十時四十五分には京城に到着するのである。

金剛山の探勝は、長安寺から外金剛山・崑崙峰を経て、九龍淵まで行くと、足の強いものは一日の行程で、足の弱いものは途中崑崙峰の先きで泊れば十分である。又自動車を利用するならば、長安寺から約六里にして新豐里につき、萬物利を見て溫井里泊りとなるが、僅二里位歩けばよい。なほ現在自動車で連絡してゐる金剛山・長安寺間五マイルの鐵道も、明年六月には開通するので、その曉は更に一時間短縮されるのである。かく京城・金剛山間は非常に便利となつたので、鐵道局は從來指定驛だけで發賣してゐた連絡切符を全鮮各驛から發賣し、個人三割引、團體五割引としたので、登山探勝家にとつては、非常な利便を與へらるゝことゝなつた。(朝鮮に據る)

コロンビアの農産業

産物より生じ其の最重要なるものは珈琲である、従つて珈琲の作物の良否は直ちにこの州の購買力に影響する、この珈琲は米國に於て特に多量に消費されるから其生産量を倍加しても價格の上には何等影響しないであらう、珈琲栽培の利益はコロンビアでは年中採收ができる點に存する、こゝは四季の別がなく、季節的の景氣不景氣がないから、價格が安定してゐる、作付者は年中一定の收入がある、故にその經營も亦

容易である、珈琲の成長は三年乃至四年を要し、約六ヶ年で成熟する、樹齡は低地で四十年高地で五十年である、季節的に多額の資本と勞働を必要としないから婦人兒童の勞働に適するの利がある、猶こゝの珈琲は苦味のないマイルド珈琲であつて、たとへブラジル産の生産過剰があつても、影響しないといはれる、其の生産は左の如くである。

ブラジル

一、四六九(百萬封度)

コロンビア

二〇一

ベネズエラ

一一〇

東印度諸島

一〇三

この中でコロンビア珈琲は上等品であるから、中心市場たる紐育では著しく高値で、一九二四年乃至一九二八年の封度當りの平均價格は二七・〇三セントボで、同期間に於てのブラジル珈琲の平均價格よりも五乃至十仙方高かつた。

コロンビアの輸出農産物中バナ、は珈琲に次で重要であつて、將來も相當發展の見込がある、烟草も近頃その葉卷及紙卷用が増加してきた、象牙椰子もその主産地で、戦前獨逸がその最大消費國であつた、土地の人は之をタグア Tagua といふ、最近は米國の消費が多い、最近アフリカ産 Dums の實より競争をうけてきた、この方は品質は悪いが、鈕製造に廣く使はれてゐる、つぎに護謨栽培の適地が廣い、アマゾン水源地の森林殊にネグロ、カケタ河及アツマイヨ河地方に存する、この森林地は大部分未開拓で、本國自身さへ其重

要性を知るものは少い。

棉花栽培は目下國內の需要を充たすに足らぬ、良好な耕地は大西洋の海岸地及中央カウカ河流域である、こゝはアメリカ最良棉花地帯たるテキサスブラック・ウエクシイ地方に似てゐる、但し勞力不足のために大規模の棉花栽培を爲すに困難である。

其他林産品として藥用樹根及エキス即規那皮、吐根、サルナ根、カスカラアマルガ、ウインタ―樹皮、蘆薈の脂、セインアルイタ、クラメリヤ(興奮劑用)スビヘリア等を産出するが組織的でないから、産額が一定しない、次に穀類生産狀況をみると多くは輸入が多い、しかしその食料品はすべてコロンビヤ國內にて生産可能性的なもののみである、これ全く勞力と資本の缺乏によつて穀類の耕作が發達しない結果といつてよい。

○埃及の産業

エジプトが土耳其の屬領たりしときは土耳其の方針は出來得る丈多く埃及より税金を取立て、自國々庫の充實を計り何等意を産業の發達に用ひなかつた、尤も農業に付ては時々指導したことがあつた。マホメッドアリに依り自治を得てから多少産業方面に注目することゝなつたのである。アリは技術方面に外國人の力を用ひ、又美術農事の發達にも努力した英傑である。

一八七四年になつて混合裁判所が出來たが、之が埃及が更生の途に上る第一歩であつた、申す迄もなくアリの孫である

イスマイル・ケジイウエル及スバル大臣の先見の明と忍耐により、埃及の秩序の安定と同時に歐洲近東から、各方面に亘る小技術者が入國したが、特に伊太利希臘からが多い。是等新來の小技術者は土著の者との工資競争上自然機械的の方面に進んだ、上記混合裁判所新設の結果、外國人で埃及に投資するものが増加し埃及國民銀行が出來、其後鐵道の敷設、製糖會社、セメント會社の進出を初め各種の産業に對して英佛白等の資本家の活動する所となつた、茲に於てこの國の産業が更らに必要とする原料と智力の供給を要するに當り、突然一九一四年の大戦になつた、そのために一時打撃をうけたけれども、地方産業發達の爲め委員會の設立をはかり、銳意對策を講じた結果、大戰のために却つてこの國の産業は發展した、即カイロ及アレキサンドリヤ兩市の産業従業員の増加は左表によつて證明される。

年次	一九〇七	一九一七	一九二七
製油關係	一、三八六	二〇七	五、四六五
織物	六、一〇四	六、二二四	九、四七二
綿及絹織物	三、一二一	二、八八四	六、四九二
染物	八八八	一三	一、〇六八
其他	二、〇九五	三、三二七	一、九一二
皮革製品(靴を除く)	五五二	一、〇一七	一、五一〇
木製品	一、五六四	九三	一、一九五
		一、二三八	一四、八六八

金屬製品	一四、〇七三	一〇、六四〇	二〇、〇九八
製陶	三九六	六五七	二〇、〇九八
製脂	一二七	三九八	九四五
石鹼ロソク	八〇	二九三	四二七
紙及紙製品	二一	二〇八	七四五
食糧品	一三、〇四三	二〇、三三六	二三、九〇四
落物製品	二四、〇一一	三七、〇一八	三九、二六九
家具	一、七一七	三、五四八	八、六〇六
建築	三二、一二七	二〇、五三四	三五、三七五
車製造及直	一、八四一	一、六三八	三、一四五
動力關係	一、九〇五	二、五一〇	六、七四六
美術科學關係	四、九七八	七、〇四〇	一、一二二八
運送	四〇、一三二	五三、八六六	七六、九四六

以上によつて埃及の産業が大體に於て長足の進歩をなしつゝあることがわかるであらう。

○日本蜜蜂の輸出

日本産の蜜蜂は近頃支那天津方面へ輸出されるやうになつた、天津近郊は花少く、土地に鹽分多く、且沼地に富み水氣割合に多いためによき養蜂地ではないが、北平附近にゆくと山有り、花有り養蜂地としての條件が揃ふ、故に輸入された日本の蜂は天津及其近縣、北平及其附近、遠くは山西、河南等に輸送されて、農家の副業となり素封家の娯樂に供される。

昭和三年はじめて我國の蜜蜂が輸入されたとき天津全體で

僅々千箱に過ぎなんだが、翌四年には一躍して約十倍一萬箱に達した、これ蜂蜜が砂糖の代用となり藥にもなるからである、昨年中の輸入量は約一萬箱約三十萬元、この内天津邦商の取扱量は其四割に達した、時期は四月から九月まで其産地は岐阜縣を第一とし愛知、九州久留米、臺灣、朝鮮に及ぶ。種類は純種と雜種で値段の關係から後者の方が需用が多い同じ一箱の中でも五枚群、六枚群、八枚群の種類があるが大體五枚群一箱、四月天津渡値段は雜種金二十圓純種二十五圓内外である、一箱約十二仙の検査費を要し輸入税は約二元になる。

幸に本邦産の蜜蜂には幼虫病がない、良品であるので今日の所安心して需要されてゐる、當業者が注意して不良品を混入しないやうにすれば將來段々とその需要が増加し、奥地にも入つてゆくやうになることは請合である。

○ペルシヤ東北部地方

ホラサン、及シスタン州と稱される地方は夫々波斯の東北隅及東部に位し、東部は阿富汗に北部はソグイェド聯邦領トルキスタンに接する、地勢概して平坦であるが北方がやゝ高い、氣候は大陸的で雨量が少く其主要産業は農牧業及絨氈の手工業であり、兩州の人口二百萬を超てゐる。ホラサンの首府メシエツドは農産、畜産及手工業品の集散中心であつて又政治、交通、商業の中心でもある、英國及ソグイェツト聯邦は何れもこゝに總領事館をおき波斯帝國銀行、オットマン銀行、ソグイェツト銀行及波斯國

立銀行の支店がある、ユンケル飛行會社はテヘランとの間に定期航路をひらく、有名な回教の廟があるために巡禮の客が年々二十萬にも達する。

道路は近年大に改修されて、二、三噸積の荷物自動車は各都市間を平均一時間二十五基米の速力で運輸を行ひ商況次第に活潑になった、勿論古來からの駱駝も用ひられる、このメシエツドからの各地への距離をしめすと、

距離		運賃		時間	
メシエツド	ドヅグリア間	九八〇	料	六〇〇	克蘭
同	テヘラン	一、〇五〇		六〇〇	
同	エジカバード	二八〇		六五〇	
同	ヘラツド	三五〇		五〇〇	
				一八	

外國品の輸入は南方は印度のガラチからベルチスタンを経てドヅグリアにつき自動車でメシエツドにくる、日本の綿糸や雜貨類もこの途をとる。

北方からはトルキスタンのエジカバード迄は鐵道できて、それから自動車にのせる、すべて露國の產物である。但しガラチからドヅグリアまでの鐵道運賃は噸當り三十弗である。從來この地方は交通運輸の方法が極めて幼稚であつた爲、各バザアの商人は常に相當のストックを保有する必要があつたので、今日でも六ヶ月分位の賣捌見込品を仕入れるくせがある、メシエツドのバザアの商人が輸入した外品の過半はその地で消費されるが、其の殘餘はホラサンのネシャブール、

又はシスタン州のナスラタバード市等にも散布される。

主なる輸入品は各種綿布、綿糸、砂糖、茶、石油、陶器、ガラス製品、絹布、羅紗地、雜貨諸金具で中にも綿絲綿布が大部分である、従前は英國マンチエスターが、この市場を獨占したが、近來ソウイエツトが砂糖及石油と同様に綿布にもダンピング的商法をとるので、マンチエスター品をこの市場から全く驅逐してしまつた、綿糸は日本品及ボンベイ品が輸入され、絨氈の綿糸につかはれる、輸出は羊毛及棉花、乾果等であつて、阿片は概ねソウイエツトへ其他は印度及歐米に向けて輸出される、同地へ輸入される綿糸は年額一萬五千捆であつて、五千捆はボンベイ、七千捆は日本品であるといふ。

質疑應答

(問) 支那の航空事業の發達 (京都T生)

(答) 一九〇三年ライト兄弟が世界最初の飛行に成功した當時でも、航空機が將來交通機關になりうることとは豫想されたが、しかし十年程の間は一種の遊戲であつた、ところが戰後十年の今日歐米の主要國は殆ど大都市間の定期航空線を完成し、アジア洲でも波斯のごときは、既に航空時代に入つてゐる。支那の如きも汽船や汽車の旅といふよりも、それを飛越して將に航空時代に入らんとしてゐる。露國は早くから西比利亞のウエルフネウジンスクから庫倫へ、獨逸のルフトハン